火の見櫓

（題字は柴谷八尾市長）

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
松村芳治
八尾市高美町５－７
TEL(0729)92-0119
FAX(0729)92-7722

「あぶないよ
ひとりぼっちに
したその火」
（統一標語）

地域性を活かした活動を

八尾市長　柴谷光謹

消防団員の皆様方並びに防災関係者の皆様方には、平素から自主防災の精神に基づき、災害時の活動はもとより地域発展のため、昼夜を問わずご尽力いただいておりますことに対し、心から敬意と感謝の意を表する次第でございます。

申し上げるまでもなく、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりは福祉の根底をなすものであり、そのためには地域連帯意識やコミュニティ活動が重要であると言えます。

本市といたしましても、地域で支えあう、市民の視点からのまちづくりに努めている中、消防団員自らの情報発信媒体として、広報紙「火の見櫓」を発行されていることは誠に心強く思う限りであります。

団員の皆様方には、今後とも地域性を活かした活動をご期待申し上げますとともに、災害のない明るく魅力ある八尾のまちづくりに、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、八尾市消防団の益々のご発展と、団員各位のご多幸・ご健勝を心より祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

新消防長にお聞きしました

消防生活が永くていらっしゃいますが、消防吏員になられた時の動機と抱負をお聞かせ下さい。

学生時代に火災に遭遇し、消防職員の勇敢な消火・救助活動に魅せられ、又生まれつき応用を利かせることが得意で、消防職はまさに天職と考え志望いたしました。抱負は社会環境に適応でき、市民に、より一層信頼される消防体制を築くことです。

消防人として最も誇りを感じたこと、最も辛かったことをお聞かせ下さい。

長い消防生活の中で最も印象に残っているものは、夜の林道で自動車が急斜面に転落、車の下敷きとなった人を無事救出し市民の大きな拍手をもって賞賛されたことです。辛かったことは「生と死は紙一重」とよく言われますが、火災現場で救出できなかった無念さで、「よう助けんで、かんにんなと何度も詫び、後ろ髪を引かれる思いで引き揚げるつらさを幾たびか経験しております。

消防長は根っからの「技術屋さんと聞いておりますが、数多くの業績の中でも、特にユニークな手作りミニ消防車『消太くん』の生みの親として団員の中でも知られています。創作の動機や完成までの苦労話をお聞かせ下さい。

一〇年前、「消太くん」は不要となったゴルフカートを譲り受け四人のグループで手作りで完成させたものです。

約六ヶ月間、休日非番を利用しての製作でしたが、趣味が高じての作業で苦労よりも完成を夢見ての楽しい期間でもありました。今でも各種の消防行事で好評で、体験学習・広報機材として防火ＰＲに役立っています。

「火の見櫓」をお読みになっての感想と、今後に対するアドバイスをお聞かせ下さい。

身近の防災部隊、地域に生きる消防団活動の重要性を読み取っていただける機関紙「火の見櫓」として、又災害時において地域を思いやる愛の精神を伝えていただきますようご期待申し上げます。

新世紀に向け消防団に対し期待することは？

常備消防とともに、災害の最前線で活動する組織であり、いざ災害が発生したとき、被害を最小限にとどめ一人でも多くの人命を救うことが出来る対応力のあるボランティア組織であります。災害に強い安全な町づくりをめざし地域自主防災のリーダーとして今後ますますの活躍を期待しております。

柴谷市長プロフィール
住所　八尾市明美町
生年月日　昭和14年1月10日
身長172㎝ 体重81㎏ 血液型Ａ型
家族構成　妻・子供一人(男)
経歴等　八尾市出身・明治大学農学部卒
昭和36年日本バルカーに勤務
昭和42年八尾市議会議員３期(12年)
昭和58年大阪府議会議員４期(16年)
平成11年八尾市長就任

南消防長プロフィール
住所　八尾市刑部
生年月日　昭和17年12月25日
身長169㎝ 体重60㎏ 血液型AB型
家族構成　妻・子供２人(男・女)
経歴等　千早赤阪村出身・富田林高等学校卒
昭和37年消防吏員拝命後、消防一筋
機械係長をはじめ、総務課長・署長等を歴任し、
平成11年八尾市消防長に就任

憧れの消防団員たれ

曙川地区自治振興委員長　中西勝晴
司会　広報部　西口勲
広報部　桐山和浩

司会　本日はご多忙中にも関わらず、広報紙『火の見櫓』の取材に快く協力頂き誠に有り難うございます。中西さん自治振興委員会の組織について今一度ご紹介願います。

中西　本会は、地域住民の生活に最も密着した住民自治組織として、相互扶助の精神を基本としながら地域の発展と住民福祉の増進に寄与し、あわせて市政の円滑な推進に協力していく組織です。

司会　西口部員の地元志紀地区における、自治振興委員会と消防団の関係についてはいかがですか？

西口　自治振興委員会は日常的な市政への協力活動の他、地区市民スポーツ祭、地域安全運動、美化運動や地区コミュニテイ活動等独自の事業を推進されていますが、私達の分団では団員として各種行事に積極的に参加して、住民生活に根ざした消防団をアピールしています。特に市民スポーツ祭でのポンプ操法の披露、年末の地区をあげての歳末警戒等は好評です。

左から　西口部員・中西氏・桐山部員

司会　自治振興委員も消防団員もボランティアとして大変な役割を持っていますが、中西さんに、ボランティアの経験と団との関わりについてお話願えませんか？

中西　阪神淡路大震災発生後、間も無く有志を募りボランティアとして神戸商船大学で「炊き出し」をしました。その後、心の「ケアー」として初音家秀若師匠にお願いしての「河内音頭」を実施した経験が有ります。その時に消防関係者の活動を目の当たりにし、大変な仕事だと感じました。地元第五分団とは平成九年五月に新車が配備され、その入魂式に八尾木町会を代表してお招きを戴き、その席で団の在り方等を、お聞きし団への認識を深めました。

司会　迅速でバイタリティ溢れる貴重な活動を、お聞きして大変感動しました。では、これからの地域で求められる団員の姿とは、どのような人でしょうか？

中西　一言で言えば、【憧れの消防団員たれ】と言う事だと思います。聞くところによると、ある地域の消防団では入団して人間関係並びに人格向上に役立つと言うことで、入団希望者が多く居られるそうです。私の地元を見ると、団員の方々は地域防災に一生懸命取り組んで居られますが、日常的なことでは、繋がりが薄い様に思います。地域での各行事への参加や協力等によって、ＰＲにもなり、団の位置付けも、より良く成ると思います。今一度地域での活動を考えられては、いかがですか。

司会　率直なご意見だと思います。このことについて西口部員の感想と意見を聞かせて下さい。

西口　各地域での団活動の格差は在りますが、地域を愛し守る気持ちは変わらないと思います。今後はもっと地域内でのコミュニティ活動が大切であると言う事を痛感しました。

司会　大変有意義なご意見を頂きまして、有り難うございました。読者の方々も色々なご意見をお寄せ下さい。

心情新たに

新団員特集

今年も一四名の若さあふれる新団員が入団いたしました。例年実施しているアンケートによって消防団に対する気持ちを伺って見ました。

入団の動機は町会からの推薦、先輩の紹介と様々でしたが、四月一日任命式に臨む気持ちは「何もわからない・何もわからんけど、一つでも地域の為に貢献したい」と言う点で全員が一致していました。

私達も、この答えに消防団活動が、まだまだ市民生活の中では知られていない事を知り、今後は、より一層地域生活に根ざした活動を推進し、安心して入団出来る体制作りの必要性を痛感致しました。

職業は会社員が九名、経営者が五名で、勤務地は市内八名、市外六名となっています。趣味は読書からスポーツ全般、公営ギャンブルまで多彩で広範囲にわたり、現代の若者気質を良く表していると思いました。

特技の中には、剣道三段の豪傑や歯科技工士など、それぞれユニークなものをお持ちです。

平均年齢三三才、今後の八尾市消防団を背負って行く、新鋭団員万歳！

さて不安を胸に入団した新団員は、その後どうなったでしょうか？

一カ月後の五月、消防学校一日入学による初任科教養での訓練風景を覗いて見ました。

当日は、非常に蒸し暑い炎天下の中で訓練が実施されました。二時間も経つと全員の顔に「やる気？」が充満、四時間過ぎるころは「ぐったり」と。しかし、そこは若さで乗り切り無事終了、帰りのバスでは訓練中に見られなかった安心した表情が伺えました。訓練の感想を聞いてみると「行進訓練の時、ただ歩くだけですが、緊張して右手と右足が同じ様に前に出ているのに気付き、自分で思わず笑ってしまう。他の人を見て合わせ様とするが、その人も同じ動きをしている。でも…笑えない…」その気持は私も経験しました。

もう一つ「こんなんで、火事消えんのかいな？ほんまに使えんのかいな！」これ、本音だと思います。

ここで先輩から一言「消防団は他のボランティアと違って人員・機械を活用して【組織】として活動出来る団体です。個人の力を一とすれば一〇人で一〇の力と成ります。しかし組織活動は組織が一体と成って働いた時、二〇にも三〇にも力を発揮するもので、単なる人の集合体では有りません」当日の訓練は、情報が正しく伝わり、それを実行出来、組織活動が可能な最小限の訓練であることを理解して戴きたいと思います。

最後に半年経った現在の心境を付け加えておきます。「何回か火災現場や分団の活動に出場し、先輩に付いて行動している内、地域の人は勿論、本当は自分自身の為になっている様な気がして来ました」との力強い言葉が聞かれました。自分達は自分達で守る、それこそ「自主防災」の精神。新団員ガンバレ！

ここで皆さんの所属と氏名を紹介しておきます。

本部分団　福田正三
第五分団　岡井淳治
〃　織谷信治
第六分団　市田有史
〃　松村浩司
〃　黒岡正史
〃　松岡孝明
〃　馬谷英明
〃　畑中喜幸
〃　辻野茂樹
〃　小林久男
第七分団　川崎義正
第九分団　桐山科雅
〃　山本一弘

正副団長と新団員

学校教官にに指導を受ける団員

現役の皆様へ

前第六分団　分団長　松岡孝司

一〇月に入り、秋気身にしみるころとなってまいりました。団員の皆様に置かれましては、いかがお過ごしでしょうか？

仕事と消防団活動の両方に頑張っておられることと思います。私も消防団を退団させて戴き、はや半年が過ぎました。

在職中は皆様には大変お世話になり又、ご協力戴きましたことを、厚く御礼申し上げます。

私、消防団員として拝命を受け、二〇年間過ごさせて戴きました。各種団体は数多く有りますが、その中でも消防団というのは身体を張って活動するボランティアであり、本当に大変な団体だと身にしみて良く分かりました。

又、地域の皆様に期待され、愛される団体、それが消防団ではないでしょうか。それを誇りにして日頃の訓練に精を出し、頑張って戴きたいと思います。そして常備消防と両輪のごとく協力し合って八尾市の防災に努めて戴きたいと思います。

最後に成りましたが、消防団の皆様、そして関係者の皆様の、ご健康とご多幸をお祈りすると共に「災害の無い住みよいまち」を目指して陰ながら応援して行きたいと思っています。本当に長い間、有り難うございました。

分団いんふぉめーしょん

本部分団　植野

「若い力と郷土愛」

我々の分団は平均年齢が若い。団員歴はさらに若く、僅か平均六年でしかない。他の分団の事は良く知らないけれど、おそらく八尾市消防団で一番だと思う。それは「経験不足の分団」とも言われそうだけれど、決して我々は気遅れや尻込みなどしないし、斬新な意見を持つ活気有る分団である。「経験豊富な分団」に負けない様、若さで地域防災に取り組んで行きたいと思う。

第４分団　嶋野

「名物団員」

今回は我が木ノ本分隊の名物団員楠繁一(クス・シゲカズ)さんを紹介します。

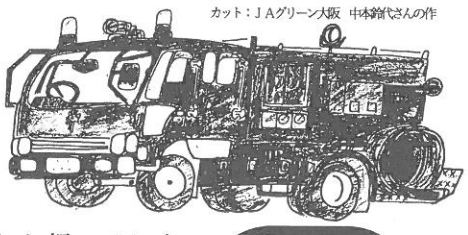
年齢等…53才・団歴16年の部長
家族構成…本妻一人・息子一人（娘は嫁ぎ孫一人）
趣味…スポーツ観戦（大の巨人ファンで八尾桑田会の副会長・いつでも入会OK！）
今の悩み…孫が私の顔を見て泣く
消防団生活…入団当時は無我夢中で先輩団員にも色々と迷惑をおかけしました。そのせいか、多くの団員が入れ替わりました。

最近思う事…入団者は一日でも長く活躍して戴きたい。活動は【和】を大切にして、家族的雰囲気の中で、お互いのコミュニケーションを図って行ければと思います。
広報部員より一言…酒と巨人を、こよなく愛されている楠さんが居るだけで、いつも分団が明るい雰囲気になります。これからも体力の続く限り、頑張って下さい。

第５分団　織谷

「新団員としての抱負」

入団するまでは、消防のことは全く興味など無かったのですが、今は違います。今夏、広島、福岡で発生した水害を見ると、日々の訓練を火災だけで無くゆる災害に備えをあらとしてお生かして行きたいと思う様に成りました。そして、まだ数カ月しか経っていないので、実際の現場活動は経験していませんが、先輩の指導のもと、日々の訓練を重ね、益々消防団員として気持ちを引き締め、消防活動に取り組んで行きたいと思っています。


カット：ＪＡグリーン大阪　中本節代さんの作

第６分団　森田

「新ユニホームで活性化」

今年、当分団では従来からの制服等に加えて、分団独自のＴシャツ(長・半袖)ジャンパー(合・冬)アポロキャップを作製しました。訓練や災害出場以外にも、様々な地域活動参加時に団員が揃って着用しています。今まで以上に活動し易く、消防団の存在をアピールとし来る目標ここに既に出お団員評をてに大好ろ「カッコよ！」しいで！

第８分団　植田

「家族サービスデー」

上之島分隊では、去る５月９日(日)に、団員家族サービスのバス旅行を実施しました。今回は40名の参加で、滋賀農業公園と琵琶湖、ワンワン王国へ行きました。５年に一度の割りで実施していますが、今回は新たに５家族が参加され、好天にも恵まれ楽しい一日が過ごせました。日頃、家族でバス旅行をすることの少ない子供達が、お父さんやお母さんと又、他の家族と一緒に１日を過ごす意味は大きく、この子供達もいつかはお父さんが消防団活動をしている重要さや、支える家族の苦労を見て、それを誇りに思ってくれる日が来ると思います。この様な機会を通じて小さな頃から火災予防の気持ちが生まれてくれたら、この上もない有意義な事であり、今後も続けて行きたいと思います。

第９分団　西口

「季節の風物詩 夏祭り」

毎年、梅雨が明ける頃になりますと、八尾市内各地において夏祭りが行われます。第九分団の各地区においても７月24日(土)、25日(日)の両日に実施されました。季節感を味わえる出来事が少なくなって来つつある今日にあって、夏祭りは昔ながらの良き伝統が感じられ、消防団員、地域の老若男女が、一体となって楽しむ事が出来る真夏の行事であり、今後いつまでも残して欲しいと、この時期が来るといつもそう思います。

特集第三分団

新都市核の防災拠点として

広報部員　泉　良幸

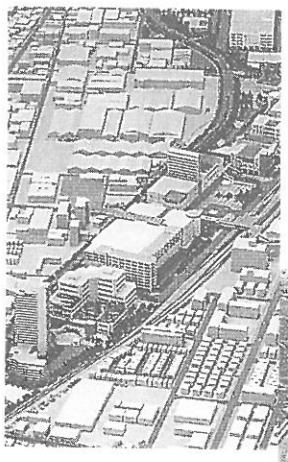
僅か八名でＪＲ八尾駅周辺から竹渕地区までの、主として市の西南部の広範囲を守備している第三分団を紹介します。管轄内には聖徳太子を祭っている勝軍寺を初めとする寺や、昔の面影を残した亀井、植松の旧村の軒並みに併せて大小の工場が混在する、河内特有の雰囲気を持った地域です。現在我が第三分団は八尾市消防団一〇分団の中でも最少の分団ですが、分団の歴史は古く、昭和二二年に従来の警防団が廃止され、消防団に改組された当時は旧龍華消防団として、植松、安中、亀井の三カ所に屯所を持ち団員一一四名を数える八尾最大の消防団として発足しました。

しかし以後条例・規則の改廃や区域の統廃合を繰り返し、昭和五七年に安中、平成四年に植松と二カ所の屯所が廃止され、平成一〇年には唯一残った亀井分隊の定数が僅か八名となりました。

亀井分隊も古くはポンプ操法訓練にも出場し、八尾市においては活発な実力ある分隊であったそうです。

輝かしい歴史を持つ我が分団も現在、各地で消防団活性化が叫ばれ、増員されている中、衰退して行く我分団の姿を見ると残念に思うと同時に私達の力不足を感じました。

最近、我が分団の中心地であるＪＲ龍華操車場跡地が大阪龍華都市拠点地区特定再開発事業地として大きな発展をとげようとしています。広大な敷地を区画整理し、公共施設を整備するとともに、土地を高度利用して産業・教育・文化・商業・住宅・医療の集積する新都市核計画が推進されています。中でも現在、太子堂にある市立病院の移転計画はその中核をなすもので、八尾市民の健康保持と地域医療支援の拠点として大きく期待されています。地域が大きく変貌しようとしている中、私達、第三分団も今一度「自らの生命・身体・財産は自ら守る」自主防災の本質をあらためて住民と共に考え、地域の防災面での拠点として若さを生かした少数精鋭の分団として地域のため頑張って行きたいと思います。



▲完成予想図

旧竜華操車場 ▶

写真提供：都市基盤整備公団
大阪東部
都市整備事業所

（次号は第四分団）

生活に溶け込んだ活動

中津川市消防団を訪ねて

第六分団　分団長　畑中　裕昭

新緑の香りが心地よい五月七日に分団長就任以来初めての幹部視察研修会に参加致しました。今回は消防団の活性化事業を活発に繰り広げておられる岐阜県中津川市を訪問させて戴きました。

中津川市は岐阜県の東南端に位置し、総面積約二七六㎢、人口五五、〇〇〇人周りを木曾山脈等の山々に囲まれ、市の中央を木曽川・中津川が流れる緑あふれる美しい街です。古くは中山道四五番目の宿場町として木曾・飛騨地方の物資集散の要所として栄え、現在は東濃東部の産業、文化の中核都市として発展しています。

市政においては中津川市は岐阜県下で唯一の東海地震にかかる地震対策強化地域に指定され様々な防災事業が講じられており、研修会の後に案内して戴いた都市公園は市民の憩いの場所としての機能に併せて防災面と安全を優先した未来型の公園として注目しました。すべてを弱者に優しいバリアフリー構造とし、飲料水に利用可能な耐震防火貯水槽、太陽発電利用の電源、災害時に防災基地や駐車場また仮設住宅用地として活用できる多目的広場等、これらは各分野の専門家は勿論、老人・子供・女性等の広く市民の意見を反映して行政側と市民が協力して建設された公園と聞き非常に感心しました。

消防団は団本部と六地区分団で総勢七〇一名、消防ポンプ車一七台、可搬動力ポンプ四〇台を運用して地域の防災に頑張っておられます。組織の中で特筆すべきは、団本部の中に経験豊かな団員を中心とした業務別の教養、総務、企画、機械、防災と五つの専門分団を組織していることです。専門分団は地区分団の指導や業務の調整を行い、技術、能力等のレベルを一定に保ち、併せて本部の指針を、より早く正確に徹底し、団員の理解と向上を図る上で、素晴らしい実績を上げておられます。

中津川市消防本部前で

中でも教養分団は火災防ぎょの基本となる消防ポンプ操法の指導にあたり、県大会優勝六回、全国大会準優勝一回とめざましい成果をあげています。

指導は教養分団員と職員で早期に講習会を開き、各地区分団に訓練指導員を養成し、以後の訓練は地区指導員により実施します。分団、市、地区協会、県大会と勝ち抜いて全国大会へ出場権が得られる訳ですが、特に市（六〇チーム）の代表までの競争は熾烈であり県大会で優勝することよりも難しいそうです。

もう一つユニークなものとして市民に親しまれている消防団音楽隊とラッパ隊の活動が有ります。活性化事業の一環として市内の高校の吹奏楽部と共演でブラスバンドフェスティバルを開催して、若者、女性、子供など幅広い層と交流を深め消防団活動をアピールして好評を受けています。

団員の平均年齢が二九歳と非常に若く、約七〇％がサラリーマンであり、平均勤続年数も四年三ヶ月と短いにもかかわらず、これだけの活発な活動実績が上がっていることに驚き、その理由を考えて見ました。

若者は、一度は消防団に入団し、短期間に集中して訓練や教養を受けながらあらゆる活動を経験をする事により、自然と市民の多くが豊富な経験と防災知識を持ち、皆で自分達の郷土を守る意識と消防事業に対する理解が長年に渡り培われた結果だと思いました。

今回の研修で私にとって大きな収穫となったことは、市民生活の中に溶け込んだ消防団活動がごく自然に営まれている実態を見聞したことです。

消防団は市民の日常生活の中で不可欠なものとして認識され、各種行事の中で重要な役割分担を果し、常に住民と行動を共にすることにより、自然に住民の防災意識と自己防衛の意識が高まり理想的な危機管理体制が構築されたものと思います。

右端が松田中津川市消防団長

我々も地域住民の安全を守るため任命を受けた消防団員として、全市域にわたり消防団の認識を高めるため、組織の見直しと市民に理解される消防団活動を、如何にするかを改めて考えさせられました。今後は「災害に強いまちづくり」のため、日常の小さな活動の積み重ねが、「市民生活に溶け込んだ消防団」の第一歩と考え、より一層、個々の研鑽を図り、頑張る所存です。

ガンバッた三一名

今回の規律訓練は雨が多く、思う様に練習が進まない中、八月八日の支部総合訓練の本番では練習以上の成果が上げられ、団長を初め各関係者からお褒めの言葉を戴きました。

始めて訓練に参加した団員の感想として「やる事全てが、生まれてはじめの事ばかりで、最初の間は照れくささや小恥ずかしい気持ちで一杯でしたが、何度か繰り返すうちにその気持ちが凛しく思えて、後半になると、すがすがしささえ感じる様になりました。又、自分のような大人でも三一名のまとまりや足並みが揃う事の難しさを知り、全員が揃った時は大変感激しました。それと同時に今の子供達にはこの様な感動が少し足り無いのではないか？と言う貴重な体験をしました」今回のすばらしい訓練を子供達が見学していたら将来、自分達も団員になって「ぜひ参加したい」と言ったにちがいないでしょう。参加された三一名の皆さん連日の練習本当にご苦労さまでした。

第四分団　姫野
〃　今仲

「ただ今から、規律訓練を開始します！」

技術団員講習に参加して

六月六日に消防本部で行われた技術団員講習に、昨年に続いて参加し、今回も多くを学んだ。

室内での理論研修に始まり、その後、屋外で二班に分かれて水利部署の訓練を受けた。初回受講者は側板式ポンプ積載車で自然水利部署を、二回以上の受講者は可搬式小型ポンプで消火栓部署について勉強した。

連成計や圧力計の情報をもとに吸水・送水圧のバランスの重要性等々。過去に先輩達から学んだ事柄を思い起こしながら緊張感とともに半日の研修が終了した。屯所への帰路研修内容を整理しつつ、このまま研修結果を自分だけのものにせず、分隊に持ち帰って全員で再研修することが重要と考え、早速副分団長に、実施するよう申し出た。

第八分団　西村

「うんうん、なるほど…？」

消防団活性化の為に！

「火の見櫓」の役目とは？

第四号の発刊で、我が広報部会も満二歳を迎えました。新聞発行とは無縁の素人達が、心配顔で第一回目の会議を持ったあの時、あの緊張感が蘇ってきました。どのような紙面に？記事は集まるか？レイアウトは？等々問題が山積でした。ある人は本を読み、担当業者に尋ね、部員同士での議論…一体どうなるのやら？　しかし、四号に向けての編集会議では、議論内容も贅沢になり【魅力】創りを考える多少の余裕すら見られる様になりました。読者を引きつける【魅力】とは？それは団員の日々の生活に密着した生の意見・それに対する反論を、この「火の見櫓」の紙面に取り上げる事だと考えます。さらにくだけて言えば、身の回りの出来事を肩の力を抜いて意見交換出来る紙面であればと…。

団員の皆さん、構える必要は全くありません。貴方の近くにいます広報部員に一言声を掛けて下さい。「貴方の思い」を文章にするお手伝いをさせてもらいます。ええ格好することも、よそ行きの言葉も必要ありません。皆さん意見交換のキャッチ・ボールを始めませんか？。取り敢えず変化球を使わず、直球で真っ向勝負をしませんか？「火の見櫓」に対する、ご意見・ご希望をお寄せ下さい。

（H）

炎天下で水防訓練

恩智川水防訓練を取材して

今年も恩智川水防訓練が、五月二一日（金）一〇時から、福万寺治水緑地で、当市消防団第九分団から二〇名・東大阪市消防団六一名の計八一名が参加して実施されました。

当日の天候は快晴で二六度、乾燥注意報発令中、本番では在りえない気象状況のもとで、各種水防工法の演習を行いました。

我が団は【釜段工】を担当しました。釜段工は、堤防から漏水した水が地中を通して平地に噴水のように吹き出した場合に、噴出口を中心に土のうを積み上げて、中に貯えた水で漏水との水圧を均衡に保つことにより、被害の拡大を防ぐ工法です。

全員が各々の役割をきちんと理解し、一致協力して、迅速かつ確実に完成しました。汗と土が混ざって、服や靴や頭までもドロドロに成りながら、本当にご苦労さまでした。

最後に団員のサラリーマン増加の傾向の中、出来れば訓練は休日に開催して頂きたいと思います。

第九分団　西口

とにかく暑かった！

自主防災組織と合同訓練

第五分団市防災訓練に参加

九月一二日日の午前九時から、八尾市八尾木東の曙川小学校で、八尾市防災訓練が実施され、先月結成された曙川小学校区自主防災組織をはじめ、関係機関や市民、約一千人が参加しました。この訓練は「八尾木東二丁目地区全域で地震による家屋倒壊、火災等の被害が発生し、ケガ人や建物の下敷きとなった人が多数おり、助けを求めている」との想定のもとで実施されました。

実戦さながらの放水訓練

発生と同時に地域の住民約三百人は、八尾木さくら公園に集合し、地元消防団員や八尾警察署員に誘導されて会場の小学校迄、避難訓練を行ないました。

避難完了後、関係機関により、電気・水道・ガス・電話等のライフラインの応急復旧訓練が実施され、引き続き自主防災組織のメンバーによる、通報、情報伝達、初期消火、救出救護、非常食の炊き出し訓練等が実施されました。

我第五分団は放水訓練や避難誘導訓練の他、救出・救護及び初期消火訓練に参加し、杉田部長が、普段訓練に不慣れな自主防火組織に対し、誰にでもわかり易い号令で指揮し、見事な組織活動を行ないました。

終了後、自主防災組織の副隊長である安村さんから「災害に備えて貴重な体験をし、住民意識の高揚になった」との感想を戴きました。

第五分団　松田

前消防団長　北野忠義氏逝去

前団長の北野忠義氏が三月三一日に逝去されました。

氏は【人間関係】を重要視され、日頃のコミュニケーションや、情報交換を大切にし、団員や市民への情報発信の媒体として団広報紙【火の見櫓】の発刊にはことのほか力を注がれました。

生前よくお聞きしました「**腰すえて、山は朝日を持ち上げる**」の句のごとく災害に強いまちづくりは一人一人が防災知識を持った強い市民によって支えられる「自主防災」の信念は今後も団員はもとより市民の心に残り続けることでしょう。ここに生前の功績をたたえ、ご冥福をお祈りいたします。

「ご苦労さまでした」

三月退団者

第七分団
本部分団
第五分団
第六分団
〃
〃
〃
〃
〃
〃

谷埜賢一
結城年治
松岡孝司
辻野康道
中村吉輝
高萩昌弘
乾谷田文雄
高宗文実
澁谷良
板倉夫
岡本朗

編集後記

最近「編集」の二文字に私の頭は占領されてしまっているように思います。編集作業の効率をあれこれ考え、恐れ多くも「マニュアル造り」をする事にしました。「たった二年の経験で？」と思われるかも知れませんが、決してそうではなく、我々がこの二年間に種々考え実行してきた中で、多くの失敗もありました。これらの貴重な？失敗経験を生かすことこそが次の紙面充実につながると信じて・・・。ともかく「いい紙面、読まれる紙面はチャレンジ精神から」と、あるマニュアルに書かれていました。

（H）

広報部会名簿

委員長		北山泰次
副委員長		久田弘義
本部分団		黒植昭
第一分団	〃	川野博
第二分団	〃	緒方保
第三分団	〃	植野弘
第四分団	〃	赤澤司
第五分団	〃	橋本己
第六分団	〃	若一修
第七分団	〃	泉繁男
第八分団	〃	川野幸
第九分団	〃	嶋北良
事務局		桐山雅弘
		松田浩一
		岸悦治
		森和己
		清恭生
		植正男
		植竹治
		西定光
		田宰勲